辺野古 芽生える人情

抗議市民と土砂運ぶトラック運転手

手振り合い立場を尊重

埋め立て土砂を搬入するトラックに手を振る市民＝6日午前9時50分、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前

埋め立て土砂を搬入するトラックに市民が手を振り運転手は手をかざし返す―。名護市辺野古の新基地建設に反対する市民が座り込む米軍キャンプ・シュワブのゲート前で小さな変化が生まれている。市民は「彼らも仕事をしている」、運転手は「毎日顔を合わせれば人情も生まれる」と話している。

6日、同ゲートでは午前9時すぎから土砂を積んだトラックが基地内へ。集まった20人近くの市民は「違法工事を止めろ」「民意は反対だ」と抗議の声を上げたが、機動隊による排除で現場が混乱をする前に自らゲート前から移動をした。

しばらくしてトラックが基地から出て来るころ、市民の一部が運転手に手を振ると、市民の方向を見ながら運転手も手をかざして走り去る様子が多く見られた。市民の1人は「手を振り返してくれる人が出てきたのは昨年ごろから。彼らも仕事として土砂を運んでいるが、全員が埋め立てに賛成しているとは限らない」と話した。

30代の運転手は市民と毎日顔を合わせるうちに「ちょっとした敬意」で手を振るようになったという。「それぞれ立場が違うかもしれないが、同じ沖縄の人でぎくしゃくするのもよくない」と強調。「自分は家族を養うため、生活のために土砂は運ばなければならない」と話しながら「毎日、会っていたら人情も生まれてくる」と市民の訴えに一定の理解を示した。